

一般質問発言通告書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長

教育長

監査委員

選挙管理委員会委員長

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 防災・減災対策について

(1) 避難所運営について

- ①今年度の総合防災訓練で、福祉避難所と連携した避難訓練が行われたか伺う。
- ②福祉避難所運営マニュアルについては、3月定例会議の予算審査の際に作成されていないとの答弁だった。作成されていない理由を伺う。
- ③以前にも質問したが、ペット同伴の避難を可能にすることが必要と考える。このことについては事前の周知、意識の醸成が大事だと思う。運営マニュアルにはペットについての記載があるが、各避難所のペット避難場所をあらかじめ確認しておくことも必要と考える。そのような検討をされているか伺う。
- ④避難所運営については、必ずしも行政職員が避難所にすぐ来られるとは限らないことから、基本的には地元住民だけでも運営できることが望ましいと考える。職員の派遣を行わない訓練も必要かと思うが、ご所見を伺う。
- ⑤防災士の活用も必要と感ずることから、そのためにもフォローアップ研修が必要と考えます。防災に関する研修を受ける中でも、公費助成を行って防災士になっていただいたのだから、しっかりと連携し活用すべきとの意見もあった。実際に、年に一度活動報告の場を設けている自治体もあるし、美郷町では石西防災研究所による研修と意見交換が行われたようだ。浜田市としての今後の取組について伺う。
- ⑥5月21日には浜田第三中学校の一年生を対象に、防災教育が行われたと伺っている。この他にも以前、小学校の授業でマイタイムラインの作成が行われたことがあると伺った。大変良い取組を行っていただいたと感じている。このような取組が広がるのが大切であり、積極的に進めていただきたいと考えるが、ご所見を伺う。

（２）避難計画について

- ①要支援者個別避難計画の作成に当たっては、ケアマネジャーの協力をいただくことが有効との認識だったと思うが、計画作成が進んでいるか状況を伺う。
- ②タイムラインは主に「流域」「自治体」「コミュニティー（まちづくり・自治会・町内会など）」「世帯・個人」の４種類があると言われている。これらのタイムラインが連動することで、より効果が期待できると考えるが、浜田市の現状について伺う。
- ③日本で最初にタイムラインの策定に取り組んだのが、三重県紀宝町である。紀宝町では役場の担当者だけでなく国土交通省や県、町の教育機関や社会福祉協議会、医師会、警察署、自主防災組織、消防団、電力会社など防災に関わる様々な機関に参加を呼びかけて議論を重ね、2015年７月から町タイムラインの運用を開始された。浜田市においても重要な連携と考えるが、ご所見を伺う。
- ④2022年５月に全国34市区町村が参画して、「タイムライン防災・全国ネットワーク国民会議」が設立された。タイムライン防災を地域や家庭に広げるためには、行政自体が見識を深めることも重要であり、そのために各地の効果的な事例を共有されている。浜田市も参画する考えはないか伺う。
- ⑤今回の総合防災訓練を終えて私自身が強く感じたことは、地域・世帯や個人のタイムラインを作成することで、防災を自分ごととして意識するということである。防災訓練も誰のために行うのか市民に伝わり切れていないと感じるが、ご所見を伺う。
- ⑥タイムライン作成のために防災ハザードマップにひな型が示されているが、ハザードマップ自体がどこに行ったか分からないとか、そのままゴミに出されることもあると聞いている。今後、新たなハザードマップを作成し配布される際には、配布して終わりでは効果が薄いと考えことから、配布後に各地域で説明会を行うことが必要ではないかと思うが、ご所見を伺う。

（３）災害関連死について

- ①避難生活が長期になると、災害関連死が起こる可能性が高くなる。関連死の認定は審査会で行われるが、審査会設置の規定がない自治体が多いことが問題とされている。浜田市の審査会設置規定はあるのか伺う。
- ②水分や食事を十分に取らず長時間同じ姿勢でいることにより、エコノミークラス症候群になることが心配される。トイレを我慢したり口腔ケアが十分にできないことにより、肺炎を発症することもある。他にも孤独や孤立が災害関連死に繋がることも考えられることから、関連死を防ぐための対策を伺う。